繪本胡蝶夢
960
1

遠門 13
号 960

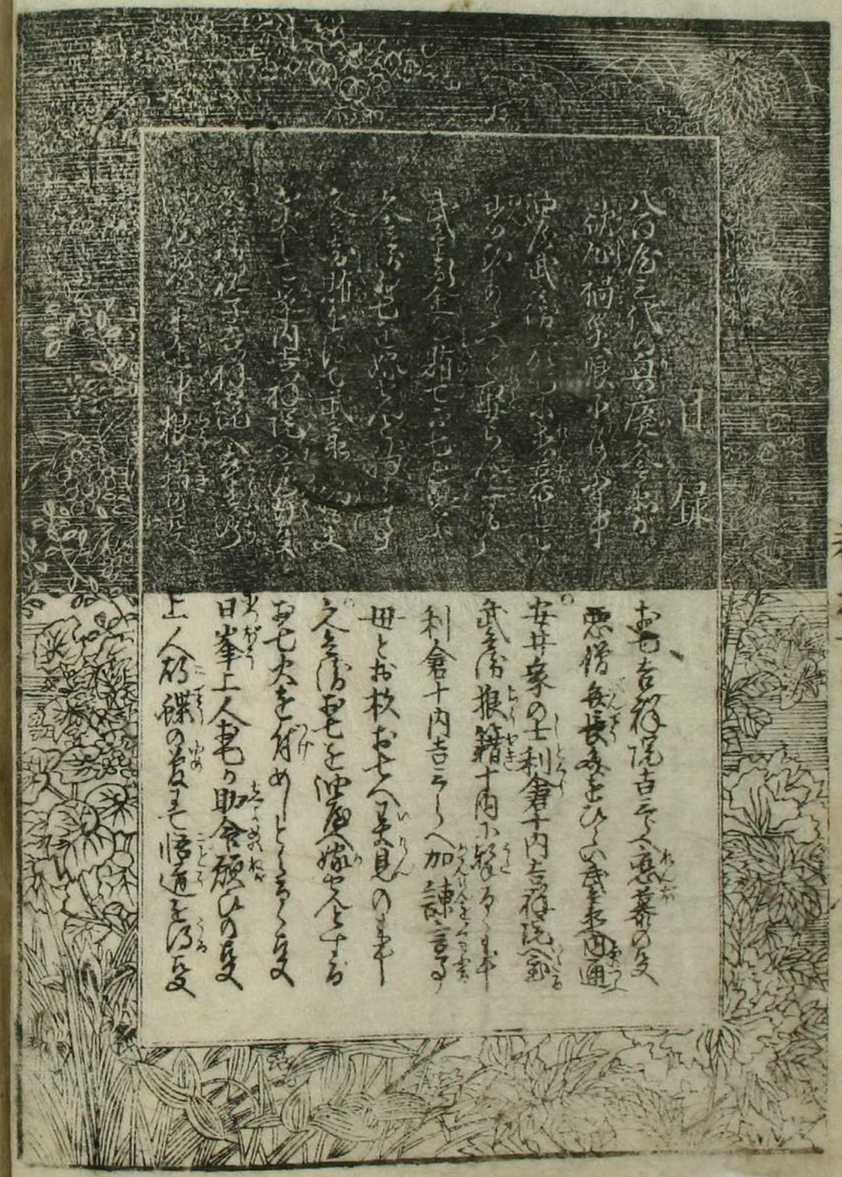
本清

余
遠百回劇場這作之感激
藝業成而今新文界加畫全彩影
ゆゑに甘つて想像仕出し所作
因あるべし達志者也

今浦報人識

いきくらべ
ふたりの師匠

あさぎや
ひさくらとふ
身のあ
白嶺



繪本胡蝶夢卷之一

橘生堂主人 兎月職

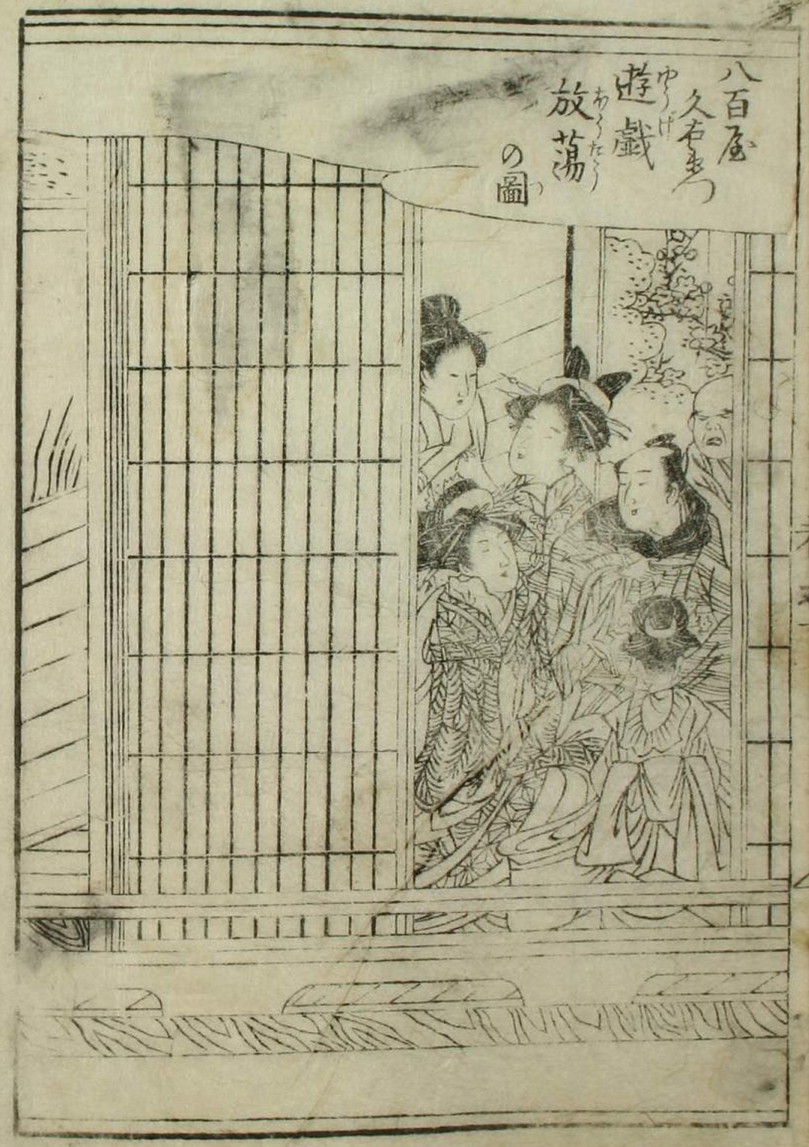
八百屋三代乃興廢久敷淡ら
欲心禍災娘ょ及ぶ乃一件

父ハ糟糠と喰ひ子ハ精鑿ょ飽孫ハ遺穂と
拾ひハ高人三代興廢乃速さといふべし。
江戸市井乃事ょ八百屋久敷淡ら人者ら。
起ハ葛西乃土百姓なりしが。本分老實漢ま
耕種ら乃賚乃蕪菁菜葩を背ょ荷ひ八百

八町より賣り弘め後よハ檐員と店より繁し傳
所と紀ところより儲居と藉りを一業より採採入
所乃村へハ借し入為入し。四季乃初産品蔬
より。蕗蕨椒方野蜀葵雞腸菜より土筆菜薺菜
墨と蒿苣より蒲公英。春乃一首乃賣出しより
夏ハ茄子より諸瓜竹筆秋松茸より芋薯流小
野筐三の浦くし那より一箇ゞ小没きゝなく店
より帰りし七重八重次第より儲し金銀より銭屋
と取より買ひとゝ。八百八町と賣家とし

巻之二

乃八百八品乞と八百屋と道ゞんや。家主ハ
這年六十五才曛日乃絶き人なれと。三年前
中風乃病より足ハ癱瘓て使ゞ調保より八莫
底乃不足なく。住せぬるのハ人乃命逐より年
秋の暦亀北邨乃悔とあそハ成より。路より能
くるハ久方ぶりして這より盗り乃三十八才。祝より
似ぬる乃鬼なりて生き乃俵なる嬌養宮殿落乃
跡弛ゞよりて有無乃事ハ裡等厠より任せ花より
移ひ酒と浪より。柳巷花街と大路より西より


八百屋
久右ゑ
遊戯
放蕩
の圖

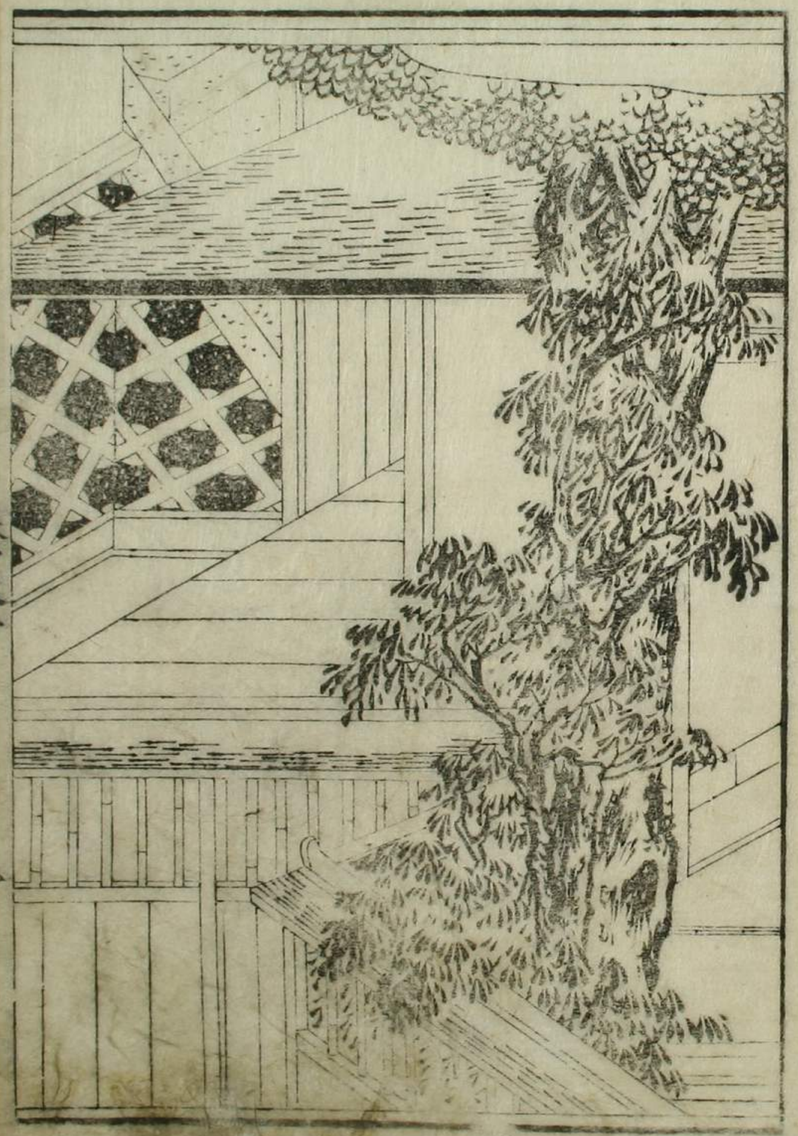
遊び東よ走り。遂よ荒淫乱酒。乃為よ動き病
よ掛りて改よ死よ垂とせり久た情つ重さまろ〳〵と
擡げ我女房よむられていくるハ人死をふ元ハ真生
よかへふとうや我き慮ども胡行孟浪乃周旋と
做し生理と鹵莽ゐ〳〵営生と顧ず先父艱難
漸磨して儲くる畜積と土乃如くあるとくよ耗
費し家と滅し為と失ひ黄泉よ立りそ〳〵父こま
逢ふとあるで何乃申理ゐんや今我ら痛悔死
しても目と閉ざふこの是なら家ら死もとや今日よ

適まろ家を如情ゐして幸ゐるるも〳〵又家督乃贅子
せんを家業ら異うれた周便施設よ立ふまて両三
年も歴ぬべ〳〵其間よハ資財物〳〵耗損じて破
落をべ〳〵ふ〳〵又表ふるとても指頭もふ方もるけまで
葉ハ家妲甚麿兵介と再耦ふて世家と復興し杜
しを呂助も召さ来せ涙よ咽て托ふるを二人も
拳局剪蹙辞ふふとい〳〵も吟意なや立初死ふ
迫し疾こと孟と出させ不容分説よ婚酌さ場。
歡適容〳〵て睡ふ〳〵ま死〳〵遊ふ。話説這乃

兵助ハこの内乃者よて十四かして江戸へ出
八百屋久左衛方へ小厨よ来ル。生質幹者ゑ
多迹を続くし得ちゑ沢して義勤よ慧く搬運
拮据ちく一つちして要捷者ちうしうい。只顧乎性
して他よ渡さ沢所よ十四五年も随従し當家
ふも管家あと只ちゑ人乃精勤ゆへ親久兵衛を
當年ハ相應乃妻とも呼じ。久右衛乃後迹とも
なさゞやと思ひし間よ病氣よ感りしと久右衛も
強く初りて此場乃憂りもかやとえへう事

辛めふ乃恥あれとを先期よ走乃宿して家の
為なれどとして自ら盃まて酌くたるゝれを
今更よ固辞かちく遂よ是ちう夫婦となり先
久右衛の遺言なれを是ちう久兵衛と名前改め
夫婦伉儷手足更錯拮据して素乃貲分よ復
起さんと辛勤節倹と要として日夜息まる乃ハ
となく家事中ちく富せしよ其年乃暮めて
ちく一人乃女子と産めり是ちん八百屋お七とて
後乃世まて乃語ちう因果乃祥で是非とをなし

冬夢
死期
讓
兵
仗
圖

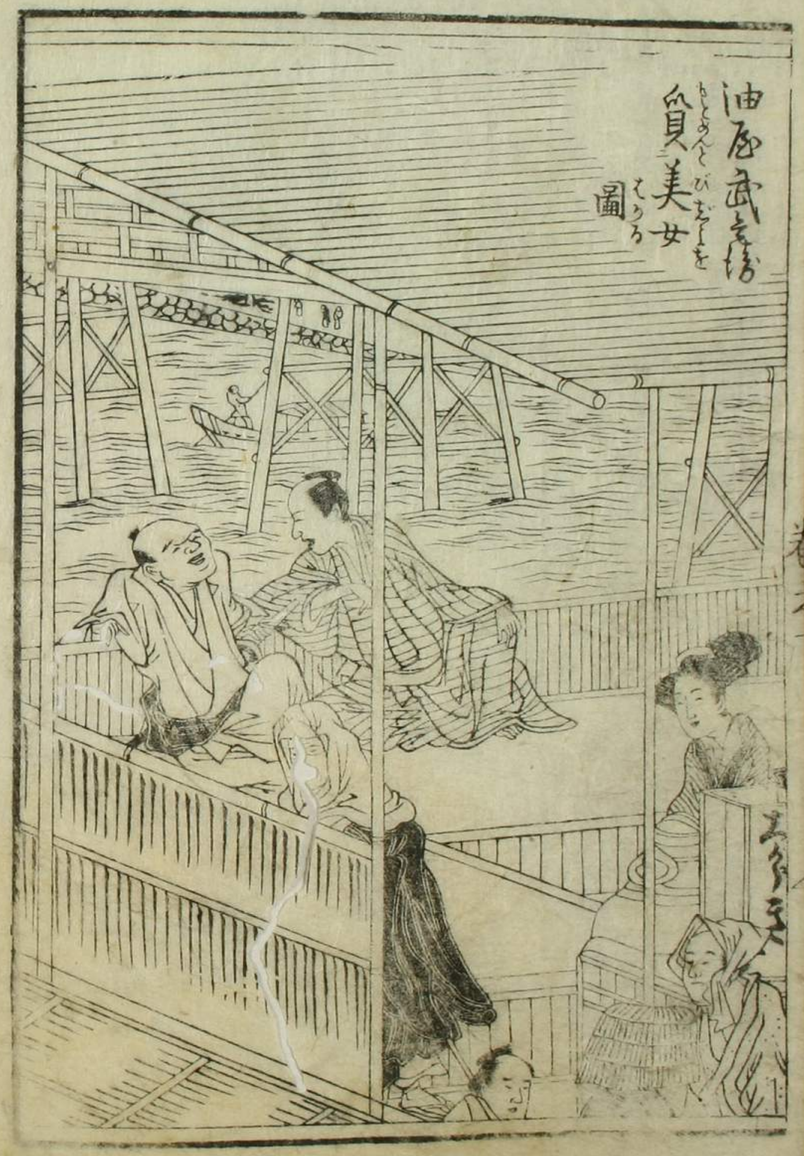


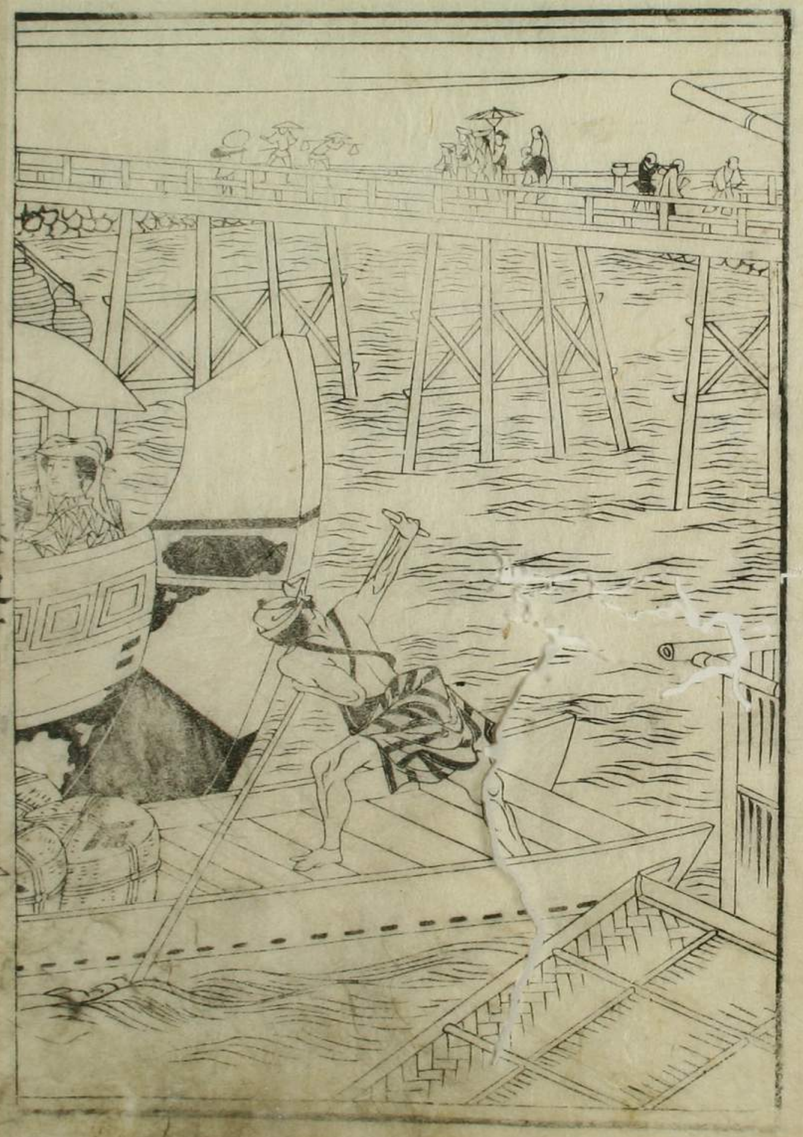
されと量より減りあり寸も長さ不ぬり尺も短
き所あり兵仗が久き清より結ぶ〻さハ必ず欠寸より長け
れとも久き清と成て家と絶く時ハ尺もまと縮き所
有るゝや元来兵勝久き清ハ生質戈幹乃有て健
捷なる者なれとも天性吝嗇みして富貴より
倫〻乃情ふゝ〻内乃生過ハ牛乃毛と毫て蝨と
ゝ蚤乃頭と割て二ツ用ふが如くなれと日く
よ寛悠なる儲なく彼より利と漫もと是より損
〻何ともなく商賣も窄狹なりて賣家と早晩

となく減〻心ハ日とより猥賤色ゝ乃きとを利と
貪る幸ハ峻尖なれと蜂乃聚る軒と避ふが如く
誰も賞ひより来る人をなく月日乃ゝるふハ矢より
も速く九右ゝる間より十五年より及色ゝ
有藝寒食郎乃一徳より食〻より切不足ハゝるれも
風雨乃禦ぎより忍ゝく那里這里と回護へとを
我ゝ乃志ゝる蓄縮ゆへより外より人乃賑濟ゝ乃
者もなく滅より窘迫屈滞してまと如何ともも
色ゝ況今ゝ〻這家と賣り商賣と止て先ゝ久

兵衛夜への恩後立ぶ又久左衛門夜ハ吾ゝ妻と我よ
娶ト て家と湯ゝきゝるゝ義理立ず先向當よ
分説なゝきハ女房ゝ面下伉儷既よ十五年ゝ
間尾鬢あゝ奥とも與へず曠ゝ西ゝき一衣も著
きゝ其底ゝ面目有て破落戸の妻と告んやまき
町中みゝと我き此家へ奚奴よ為ゝ介若屋敷の東道
と成りしも器量あゝゆゝと称ゝまゝしよ汚面とん
世店と破却して人ゝへよ笑ゝられんハ體面ゝ醜るき
事死よ勝る恥辱なゝ有まゝ死ゝんゝゝい易ゝれも

あや娘ゝ雅後と見拵て黄泉よ移りてをゝ久
左衛夜や久左衛夜よ遂ふぐ何とゝて分説せんやと
只顧ゝ猶縁ゝてゝゝゝ変せゝ支智ゝゝれぐ
偽ゝ財ゝゝゝゝ盗ゝゝゝゝゝゝ人の心ハ
貪ゝれゝ必ゝゝも乱ゝ悲ゝひゝれ久左衛門と花
街よ隠んゝふハ孫ゝも萬望富家よ縁と求め
て我ゝ薄助よもゝ可憐風流ゝ狂客もゝれ
春情ゝいて挑志ゝんゝめゝ久兵衛が蓮心ゝ起
きゝふハ悲哉阿七が災と得ふゝ基本ゝゝ


油屋武兵衛
貧美女
圖



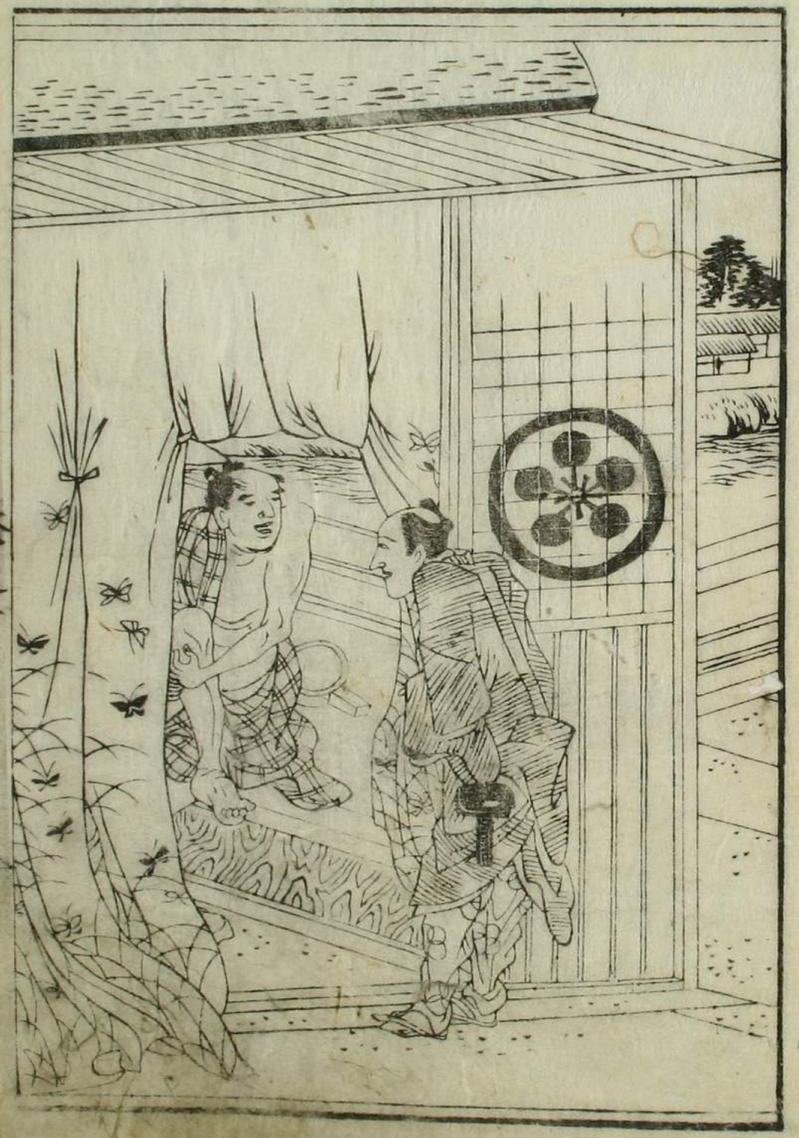
予十歳ばかりの頃なりしゆ古びゆ篤芳尼
といふる僧婆乃有しが其齢九十四ゆ
幼女乃頃より所ありて江戸ゆ音長しハ
百屋於七の伝説と伝説されしと小耳ゆ
於り其尼乃いへるハ我も甚日ハ旗室宮
事ありて見ゆ[illegible]しが乃中婢使乃説
話とそけど於七甚日ゆ使きゆ八年歳ハ
十六といへと十四五とゆ花娘なり嗚呼
内乃振袖と着て背ゆ馬上ゆ待

[illegible]とが八百屋乃娘なれと吉原深川乃風
流乃治妖を形し又紅杏乃お岌笠森おせん
といふるかど乃風言ゆハ[illegible]れも嬢娜と窈窕
かてされし牡丹花乃雨ゆ卓めが如く居る
人形人口とよいまし紫慮なれ小娘子ゆ活潑
活ハかきしもの如し神と濡しぬ人もなく森ゆ
る人とも鬻破火と魅ろしとろうとも皆一回ゆ
目と驚き南無阿弥陀佛南無妙法蓮華経
救ふ人乃廻向乃為ゆ餅乃森ゆ驚く音法

かりそめ事なりしに深き心ある人ハ久しき清と
嫉こゝろ己が吝慳深慾より一人娘と火よ焼ふ視
みくと鬼ハ有りうと嫉まゝのハなりもしし間
そう後まゝ尼り仕盛乃時よ吉三房主とて江
戸ロこよ濡佛と立て放七が罪業消滅乃為
とて勧化して巡りし坊主あり這坊主ハ
知りて居もうしと云ふ十歳ばかりの時よ
亜こうふまく寂よ奇説と拳て後人よもう
しむ

油屋武兵衛於七よ寵幸して
恩と嘗へて奪へんとをは一件
富て奢ぬいなく貪して福をあハなり貪
て福ふ乃猥賤ハ人と誑して賺して利と貪ん
との志よ有りしの あれよ八百屋久兵清ハこゝをが
吝慳のゆへよ濡りの家乃も早晩となく手宮
今ハとや若箇ともす色ゝ沢先主人乃義理
といく女房の面下世上の面體一時よ身よ逼
足右よ支へ尤よ吾へぜんをべなるしを性貪

武蔵坊弁慶
後世
絵巻
圖



悪乃志と内よ巧み娘於七と豪家の妻よ
面々だや又ハ世間ハ嫁入の名ふて遠く人きゝ
京大坂へも響だやと乖巧ハきてあれこと卒
忽よ女房よも流しぶ〻又ハ性よ顧きと顧
ちゝき事ふをあゝきれどめ〻ハ身よ恥て竊よ
無念の涙と嗟とあれとも繾綣なきあふ思へり
這里よ上三町目よ油屋武蔵とて豪魁乃油
問屋あり親父ハ去年乃春死去せるを内母を人
まて兄弟ともれく管家七八人も遣ひ家和

二十人余も追回し日く繁昌乃家たり富た
敬ふなゝいまて上下三町目乃間ハ東道を
と称せり這の東道當年二十四まて先東道去
年母生乃時縁組の事彼是と商議もあり
ども意ハ缺け意ハ就ら遂を百よ先東道
ハ死去せられて于今無妻ふて妻を人と定て
當分乃渇とるかとせるまよ嬌ハ母のあひ切
金銀ハ自由なり一日も速く嫁と呼むへく諸
方くと吹ノ結ひ既よ就りて見縁まなれを部

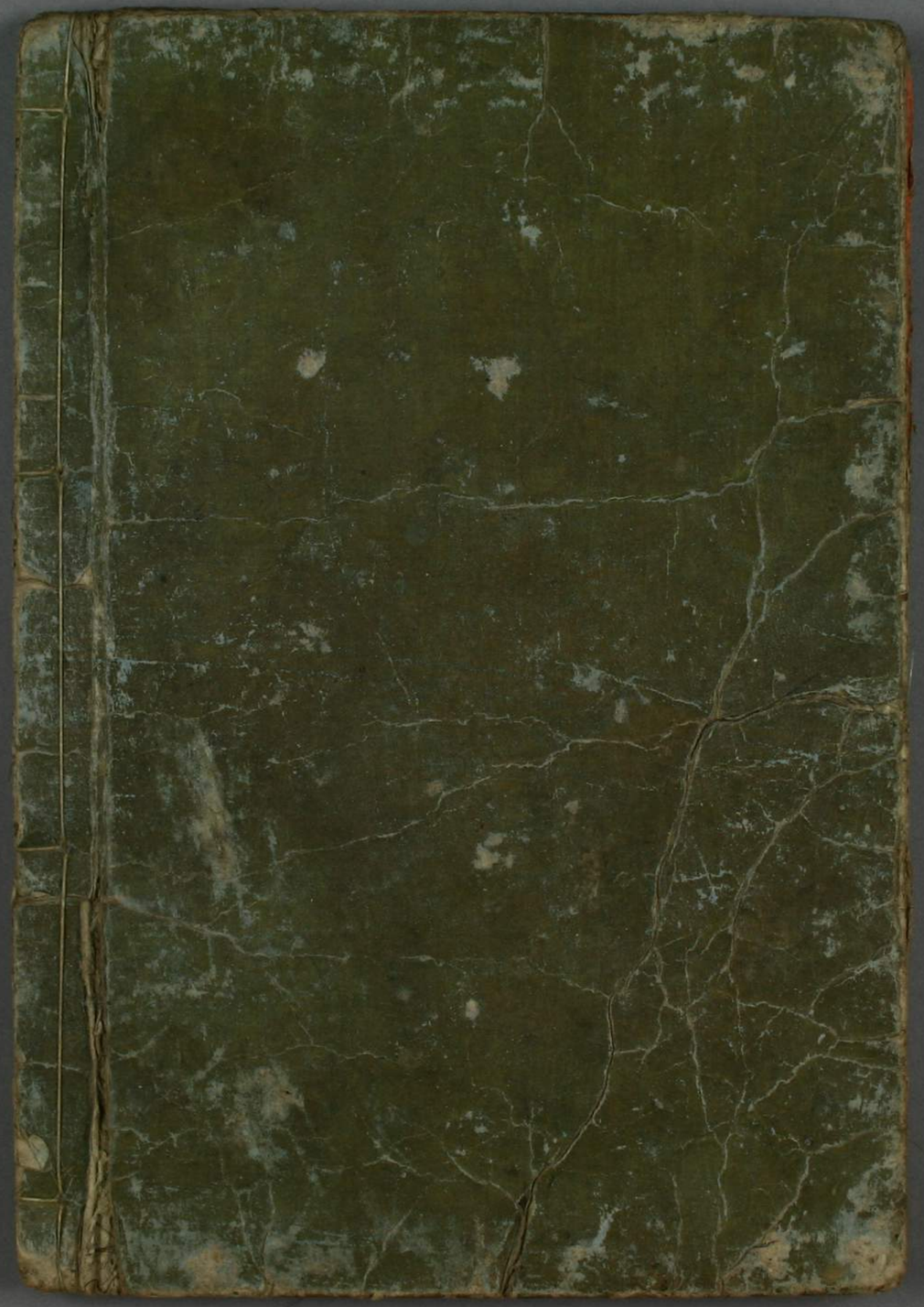
母も焦心てはゝ人ハ家族ハも哀寸鬱憂まと
よゝ涙武さ法が家ま應じゝふくものあゝも吟へ
迷ハ色し相度支度ハ這方ゝ為一し千代共
まても努力して穿鑿し求色しと母法ゝ作
生もしゝハ是僥倖し醜答代の惣さ法とハ者武
さ法ま隨従して西ま走り東ま走りて侫し賄財貪
らん事と巧めり武さ法もまと白小賊乃盗もえ
わく娘る乃有家くと垣見してそ迫もり法ま
四町目乃八百色の娘と吟出し一整人ま法く一日

毒戸前と彷徨して躊躇せり久法ハ三町乃東
道乃ゝちれを見店乃内より疎跪頻適れを
含笑して含禅し通もり程乃日まゝもや来て
躊躇しかし久法趨り向へ些侍供下さ為色しと
帯くと横へま吟然ゝして店頭ま倚り上野寺家方
へ献上乃推茸五十介ゝり賞滑ゝ佳品乃
畜へあゝま見セ給へ不遺賞色ゝ久法跪頻ふ吉
あり擇覧ま侍へゝし熟制店中なれゝも醒醒と
いゝゝ詰侍ま法りかさふへし娘子哩於七哩侍茶拿

武之宿
おせん
憂慕の
景

来といて土蔵へ椎茸と取りしを入まち傾て
お七ハ茶と携へ浮系一ツ進上ちんと捧出を茶盆と
取る間も顔瞞ふ乃耻うそを茶臺さそ垂こさを傳
ふ翻ゝて内ゝ入ゝ一飲乃系ハ咽と潤ゝと甘露の
如く覚へ今一ツ乞ひ求人ものとなり人多へ久清い
椎茸携へ待遠なるんと謝し椎茸乃志れく
さ〳〵並べ彼岸とすむれも恍ゝ惚ゝて心
這ゝ椎茸ゝあゝ以ゝ椎茸ハ墨ふも悪ゝも
皆買求へ〳〵椎茸の志ふ寸山も川も貰求ひど

い後這方乃宅へを入故ゝ〳〵又諸用幸も
ふゝも竊ゝ関されゝ三十又十ホ乃金ゝ乃ゝ
ハ表面ゝ代苦斟酌ゝ及ゝ何時ゝも申越き
ゝ乃しどいと困切なゝ頼ゝ為ゝ渡ゝとなゝ有難ゝ
自真ハ彩ゝ近年ハ毎風雨ゝ世ゝ左板ゝ味ゝ
當日金家ハいくゝ蔵人ゝ僅ゝ妻ゝ娘ゝ両婦
一人のゝ休怪ゝ造化ハ車乃輪のめく運ゝ乃ゝ
を換ゝ志ゝ乃ゝ誰ゝ一人負荷ゝ乃ゝ力ゝ
ゝ乃ゝ切ハ労ゝ車ゝ乃ゝ金ゝ乃ゝ表ゝ

歳く年を日まと二八よ及ふ頃嫁要なりしまて
父母乃為養よ長ぜり否こ鮮姉ふ一箇の
好娘子なり愛を愛しむ〜ふ〜ふ
娘子乃美を頼りて父母まと富貴と得ふと
證をくふかに代て良壻得てれ夫婦も迷惑
をへの樂とも做をべしかし道て恐を久を活
ハ莊然ふて怠乃縁由と考ふ熟こ思ふ
に這就偶娘ふと戀牽ふの結搆なふん此上
もなふと造化をを金坑と得ふ何ふも為よ

娘と偶人をのと深く妻よを隠し獨居して
後乃禍と招ふ